



コロナ終息を願い
花火を打ち上げ

■10月25日、毎年恒例の新酒まつりの花火がサプライズで打ち上げられました。コロナ終息を願い、そして地元枕崎を元気づけようと、色とりどりの花火が夜空を彩りました。



第54回枕崎市総合文化祭

■10月24日から11月3日までの期間、南浜館では絵画や写真、陶芸などが展示されました。11月3日には、市民会館で芸能部門がビデオ放映で開催されました。



鹿児島水産高校で
「音楽の花束」コンサート

■11月8日、鹿児島水産高校で「音楽の花束」が開催されました。枕崎中学校の吹奏楽やピアノ二重奏、鹿児島国際大学教授の長田新太郎氏によるヴァイオリン演奏など、素晴らしい音色に観客が魅了されました。



なぎなたジュニア教室

■11月7日に総合体育館で開催され、市内の小・中学生約20名が参加しました。参加者は礼法などを学んだ後、防具を付けた相手に実際に打ち込みをするなど、なぎなたを楽しみました。



枕崎小学校の児童が水産高校を訪問
～枕崎小学校、秋の一日校外学習

10月29日、枕崎小学校の2年生の児童78名が秋の1日校外学習で鹿児島水産高校を訪れ、さまざまな体験活動を行いました。

体験活動では、食品工学科の生徒と一緒に缶詰づくり体験などを行ったほか、枕崎の魚に関する授業も行われました。栽培工学科では、養殖している魚の見学を行った後、実際にチョウザメに触れる場面もあり、児童は間近で見るチョウザメに興味深々でした。

最後は地元枕崎の良さを体感しようと、JR指宿枕崎線を利用して枕崎駅まで帰りました。



100歳おめでとうございます
～前山ツヨさん(日之出町)

前山ツヨさんが10月22日、めでたく100歳の誕生日を迎え、26日に市と社会福祉協議会から花束と祝い金が贈られました。

前山さんは生まれも育ちも枕崎で、6人の子宝に恵まれました。若い頃から手先が器用だったという前山さんは、縫い物が好きで、95歳くらいまで着物を割烹着に手直しする作業をしていたそうです。長生きの秘訣は「好き嫌いをなく何でもよく食べること」と話します。これからも元気で長生きしてください。



最優秀賞の「新酒」が焼酎のラベルに
～2020新酒児童書道展表彰式

11月2日、2020新酒児童書道展表彰式が明治蔵で開催され、4名の受賞者(当日1名欠席)が表彰されました。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で新酒まつりは中止となりましたが、書道展は例年どおり実施され、応募総数281点の中から最優秀賞1点、白波賞4点が選ばれました。

最優秀賞を受賞した桑原るるさん(枕崎小・6年)は、「小学校最後の年に最優秀賞をもらったので、うれしかったです」と話してくれました。

桑原さんが書いた「新酒」の文字は、手造り明治蔵 新酒のラベルとして使用され、数量限定で販売されました。



▲手造り明治蔵 新酒



茅野雅博さんが箱根駅伝に出場
～第97回東京箱根間往復大学駅伝競走

1月2日から開催予定の第97回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)に本市出身の茅野雅博さんが専修大学の主将として出場することが決まりました。専修大学は7年ぶりの箱根駅伝出場となります。

茅野さんは別府小・中学校の出身で、幼い頃は水泳や野球をしながら、朝晩は瀬戸公園で走る練習をし、県中学校陸上大会や駅伝大会に出場するなど、陸上面でも活躍してきました。別府中学校を卒業後、阿久根市の鶴翔高校を経て、駅伝強豪校の専修大学に進学しました。

茅野さんは「色々な方々に感謝をしながら、応援してくれる方々に元気と力を与えられるような走りをしたい」と話しました。

旬のお便り 地元漁業者応援企画
枕崎で水揚げされる旬の海産物を紹介します!



ブリ
冬に旬を迎える魚として代表的なブリは、刺身や照り焼き、煮物、しゃぶしゃぶなどさまざまな方法で調理され、冬の食卓には欠かせない魚です。

ブリは体の大きさによって呼び名が変わる出世魚で、縁起の良い魚です。関東地方ではワカシ→イナダ→ワラサ→ブリと呼ばれ、関西地方ではツバス(ヤズ)→ハマチ→メジロ→ブリと呼ばれます。

ブリの旬の時期は12月から2月頃で、この時期のブ

りは「寒ブリ」と呼ばれ、たっぷりと脂を蓄えているのが特徴です。漢字では「鰯」と書き、師走の時期に旬を迎えるとも言われています。その身はしっかりと締まっていて、この時期にしか味わうことのできない良質な脂がのっています。

おすすめ料理
ブリの照り焼き

ブリの代表的な料理の一つです。最初に表面に小麦粉をまぶして焼くことで、中の脂を閉じ込め、ふっくらと仕上げることができます。

